

フォスタリングチェンジ・プログラム 2025年度実施報告



一般社団法人 無憂樹

- フォスタリングチェンジ・プログラムのこれから 01
- フォスタリングチェンジ・プログラムについて 02
- プログラムの概要 03～04
- 2025年度FCP実施状況の概要 05～06

実施報告

- フォスタリングチェンジ・プログラム in北海道 07
- フォスタリングチェンジ・プログラム in岩手県 08
- フォスタリングチェンジ・プログラム in茨城県 09
- フォスタリングチェンジ・プログラム in茨城県 10
- フォスタリングチェンジ・プログラム in栃木県 11
- フォスタリングチェンジ・プログラム in神奈川県 12
- フォスタリングチェンジ・プログラム in神奈川県 13
- フォスタリングチェンジ・プログラム in神奈川県 14
- フォスタリングチェンジ・プログラム in山梨県 15
- フォスタリングチェンジ・プログラム in長野県 16
- フォスタリングチェンジ・プログラム in長野県 17
- フォスタリングチェンジ・プログラム in静岡県 18
- フォスタリングチェンジ・プログラム in大阪府 19
- フォスタリングチェンジ・プログラム in広島県 20
- フォスタリングチェンジ・プログラム in山口県 21
- フォスタリングチェンジ・プログラム in高知県 22
- フォスタリングチェンジ・プログラム in熊本県 23

ファシテーターフォローアップミーティング 24

プログラムに関する里親の評価 25～28

総括2025年度の実施と今後の課題 29

フォスタリングチェンジ・プログラムのこれから ~10周年を迎えて~

| 一般社団法人 無憂樹 代表 上村 宏樹 |

2016年に日本で最初のフォスタリングチェンジ・プログラム（FCP）ファシリテーター養成講座が開催され、実践されてから、まもなく10年の節目を迎えようとしています。2025年度もファシリテーターの数は着実に増加し、全国の多くの自治体で本プログラムが開催されました。

コロナ禍以降回復した実施回数は今年度も高い水準を維持しており、里親参加者の出席率も極めて良好です。これはひとえに、全国のFCPファシリテーターの皆様のご尽力と、里親の皆様の日々の実践の賜物であり、同時にこのプログラムが持つ内容の普遍的な価値を示すものであると思います。

2025年度は、前年に施行された改正児童福祉法に基づき、こども家庭センターの整備や地域における里親支援の体制強化が本格的に進められた年となりました。こどもの権利擁護がより一層重視される中、トラウマインフォームドケアの視点や、アタッチメントに根ざした養育への理解が社会的に広く求められるようになりました。このような情勢において、里親とこどもの関係性を再構築し、委託後の養育を具体的に支えるFCPのようなエビデンスに基づくプログラムの役割は、ますます重要性を増していると思います。

毎年実施しておりますプログラム修了後の調査では、今年度も全国の受講者からアンケートへのご協力をいただきました。集計結果からも、こどもの行動における肯定的な変化や、里親自身の養育に対する自信の向上が確認されています。こどもの力を引き出し、関係性の変容に寄与するFCPの確かな効果が、今年度のデータからも裏付けられております。

一般社団法人無憂樹では、こどもや里親、支援機関にとってさらに有益な存在となるべく、新たな方向性を模索し続けています。いよいよ来たる2026年度は、FCPの日本導入・実施から10周年となる記念すべき年となります。現在、これまでの歩みを振り返り、さらなる発展を期するための10周年企画を構想中です。最後になりますが、平素より無憂樹およびFCP事務局の活動に多大なご支援をいただいている関係機関の皆様、常に温かくご指導くださる松崎先生、上鹿渡先生、トレーナー、全国のファシリテーターの皆様、そして里親の皆様と子どもたちに心より感謝を申し上げ、本年度の報告書をお届けさせていただきます。



フォスタリングチェンジ・プログラムについて

｜早稲田大学教授・児童精神科医 上鹿渡 和弘｜

関係の皆様の日々のご尽力に心より感謝申し上げます。

各自治体で社会的養育推進計画のもと全国の自治体で様々な実践が展開されています。前半5年間の計画に比べて、後半2025年度からの計画では、国が目指す里親等委託率を目標として設定する自治体が増えました。こども家庭庁により「こどもまんなか」が言われるなかで策定されたこの計画は、子どものニーズに合わせてこれまでの社会的養護や養育を変えようとするものです。関わる人たちが皆で共有すべきキーワードは「子どもの権利（自分らしく育つ子ども期）」、「アタッチメント（安心と挑戦）」「パーマネンシー（大切な大人とのつながり）」の3つです。

子どものパーマネンシー保障実現に向けた里親養育の役割を考えると、これまでの親子分離後の社会的養護の役割に留まらず、親と一緒に子どもを育てる社会的養育まで広がる役割が期待されます。これまで以上に里親養育が子どもとともにあり続けられるよう地域や関係者の理解、支援の充実、また、個々の里親の理解や養育スキル向上がますます必要とされています。

このような中2025年度も、日本全国でフォスタリングチェンジ・プログラムが実施されました。プログラムの中で紹介されるスキルの中で最も重視される「アテンディング」では、子どもと養育者が「いっしょにいること」を日々の生活の中で確実に実現します。アテンディングは、まさに子どもにとって重要な「安心と遊び」を確実に実現する方法です。また、1回3時間で12週間続くグループでの対面研修によって、参加者はそれぞれの取り組みや経験を共有し、グループの中で受け入れられ大事にされる経験を通して、里親養育の重要性や可能性に気づき、子どもの理解や対応についても考えるようになります。

このプログラムを通して里親養育支援に携わる方々と養育者の努力が、子どもにとっての様々な良い変化につながることを願い、皆様とのさらなる取り組みに期待しております。



フォスタリングチェンジ・プログラムの概要

フォスタリングチェンジ・プログラムは、アタッチメント理論、社会的学習理論、認知行動理論に基き、ペアレントトレーニングの考えも取り入れて1999年にロンドンのモーズレイ病院の専門家チームによって開発されたものです。その後、現場での実践と評価を経て2011年に改訂版のマニュアルが出版され、これに基づいた無作為化比較試験（RCT）が2012年に実施されました。社会的養護下にある子どものかかえる問題、特に様々な虐待の影響に配慮した子どもの理解とそれに基づく対応について、子どもの長所に焦点をあて、育み、認証し、実践的なスキルを学び、家庭で実践するプログラムです。効果的な褒め方やアテンディング、限界設定やタイムアウトなどについて学びながら実践し、里親自身が自分で考え対応できるようになることを目指すプログラムとなっています。

プログラムの実施構成は、以下の通りである。

◆通常版

週1回3時間、里親グループでのセッションを12回（約3か月）継続。

対象者は、実際に2歳から12歳未満の里子を養育している里親12名まで。

◆思春期版

週1回3時間30分、里親グループでのセッションを12回（約3か月）継続。

対象者は、12歳以上から18歳未満の里子を養育している里親12名まで。

●最低2名のファシリテーターが担当する。

●お茶やお菓子が用意され、温かい雰囲気の中で実施される。

プログラム内容は、以下のフラワーパワーに示されているような4つ要素からなっている。

■通常版

養育に最も必要な要素として「温もり」と「観察」が基本となり、中核に「肯定的な注目」がある。

以下の①から④の順番でセッションが実施される。

1. 関係を強化する～褒める、アテンディング（肯定的注目）、代替行動の選択、有形の報酬、ご褒美表、遊び
2. 教育～子どもの学習の支援、宿題戦略、子どもの読書を助ける、学校との連携
3. ソーシャルスキル～リフレクティブ・リスニング、考えと感情のラベリングと管理、アイ（私は）メッセージ、問題解決、ストップ・プラン・アンド・ゴー
4. ポジティブ・ディシプリン（肯定的しつけ）～明確で穏やかな指示、選択的無視、自然な結果と合理的な結果、家族のルール、タイムアウト

■思春期版

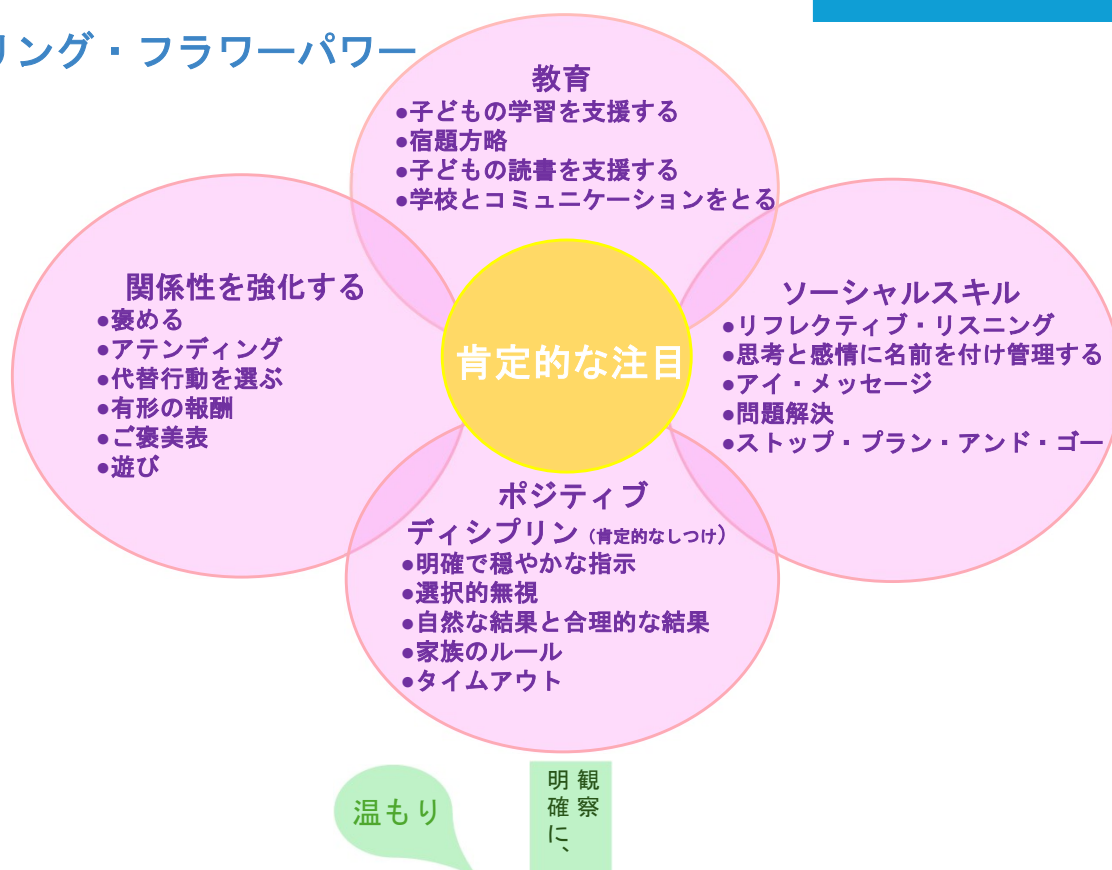
養育に最も必要な要素として「温もり」と「観察」が基本となり、中核に「ポジティブな世話/注目」とともに、思春期特性への理解としてアタッチメントとレジリエンス（回復力）がある。以下の①から④の順番でセッションが実施される。

1. 関係性を強化する～褒める、1対1の時間、代替行動を選ぶ、有形の報酬、ポイント・チャート
2. 教育～子どもの学習支援、読書、宿題や勉強を行うことを激励する、学校とコミュニケーション、アイ・メッセージ
3. ソーシャルスキル～リフレクティブ・リスニング、思考と感情に名前を付け管理する、問題解決、ストップ・プラン・アンド・ゴー
4. ポジティブ・ディシプリン（肯定的しつけ）～明確で穏やかな指示、選択的無視、自然な結果と合理的な結果、家族のルール、外出禁止、家事、検査は禁止

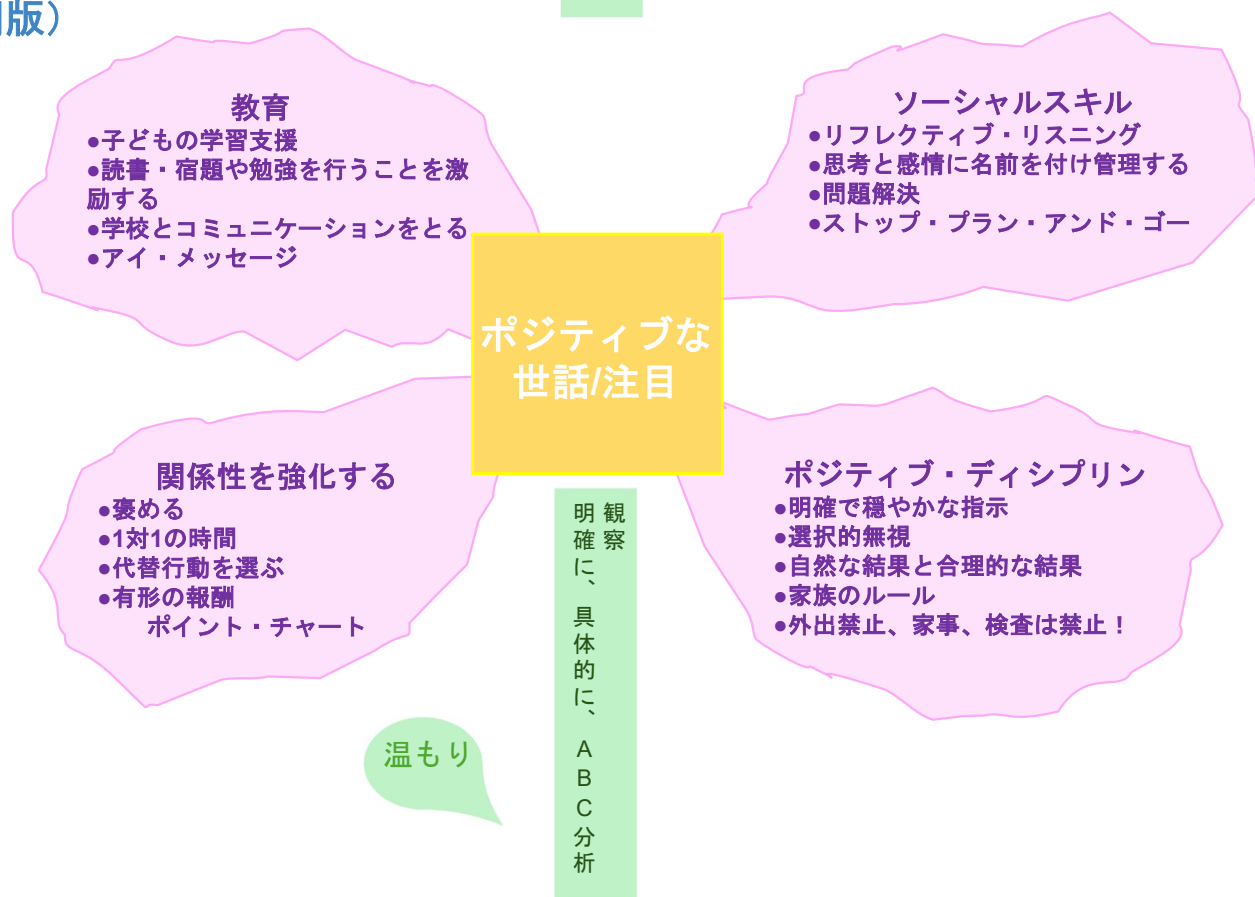
さらに、プログラムの特徴として以下の点があげられる。

最初にファシリテーターとなる担当者が里親宅を個別に訪問し既定の聞き取りを実施し、その情報をグループでのセッションに生かすなど、個別訪問による事前の関係づくりによってプログラムへの里親の参加・継続率が高く維持されている。各セッション終了時に里親からの評価が行われ、相互性のあるプログラムとなっている。里親は基本的に一人の子どもを対象に行動観察、プログラムの演習・実践を施行するが、他きょうだいにも並行して応用することが可能である。また、子どもの行動やアタッチメントなどについて、事前事後の評価を行うことができる。

フォスタリング・フラワーパワー (通常版)



フォスタリング・フラワーパワー (思春期版)



2025年フォスタリングチェンジ・プログラムプログラム実施状況の概要

｜SOS子どもの村JAPAN 松崎 佳子｜

フォスタリングチェンジ・プログラム（以下FCP）は、ネグレクトや虐待が与える影響を考慮しつつ、効果的なコミュニケーション、問題解決のスキルを重視し、里親が日々の生活の中で、子どもの行動のニーズを把握し対応できるようになること、子どもとの良好な関係性の構築を目的としている研修です。2016年度に福岡と熊本でスタートしました。

2020年からの新型コロナの流行により実施を見送らざるを得ない地域もありましたが、時期の検討や消毒や安全な場所の設定などのコロナ対策を工夫することにより、実施を続けてきています。2025年度は、全国13地域で19回実施されました。4地域では、2か所～3か所で実施されています。また、参加しやすいように土曜日の実施に取り組んだ地域もあります。詳細は、表1及び各地報告をご参照ください。実施主体機関は、里親支援センターが増えてきています。参加里親さんも養育里親のみならず、養子縁組や親族里親、ファミリーホームの補助者の方など多彩になってきています。

ファシリテーター養成講座は、通常版養成講座（4日間）を8月末～9月初旬、1月末～2月初旬に2日ずつ前期をオンラインで、後期を対面で実施しました。思春期版養成講座（1日）は、通常版を2回以上経験したファシリテーターを対象に3月にオンラインで実施しました。

FCPも10年目を迎えほぼ全県に、350名以上のファシリテーターが養成され、活動していますが、異動等もあり、実施体制の強化を図る必要のある地域もでてきています。

ファシリテーターのスキルアップ、質の保証のためのフォローアップミーティングはオンラインにより3回実施しました。毎回実施報告や、各地域の実情報告が行われ、各地の工夫や課題の共有がなされています。



2025年度フォスタリングチェンジ・プログラムプログラム実施状況(表1)

地域	実施時期	対象者	実施主体機関
北海道	9月～12月	4名(養育里親4名)	児童養護施設、家庭支援センター
岩手	9月～11月	4名(養育里親3名、養子縁組1名)	里親支援センター、児童養護施設、乳児院
茨城	10月～12月	8名(養育里親7名、養子縁組1名)	乳児院
茨城	10月～翌1月	6名(養育里親6名)	児童養護施設 児童家庭支援センター
栃木	9月～11月	7名(養育里親7名)	里親支援センターTFC
	9月～12月	4名(養育里親1名、養子縁組1名、FH1名、補助者1名)	
神奈川	9月～12月	5名(養育里親4名、養子縁組1名)	横浜市里親会
神奈川	9月～12月	5名(養育里親3名、養子縁組2名)	里親養育包括支援センター
神奈川	4月～7月	6名(養育里親6名)	家庭養育支援センター 里親センター、児童養護施設
山梨	10月～12月	4名(養育里親4名)	社会的養育機関里親支援センター 児童養護施設乳児院
長野	9月～11月	4名(養育里親2名、FH2名)	児童相談所、児童家庭支援センター 児童養護施設、里親養育包括支援機関
長野	1月～3月	4名(養育里親3名、養子縁組1名)	里親支援センター
静岡	5月～7月	6名(養育里親5名、FH1名)	里親家庭支援センター
大阪	5月～7月	3名(養育里親1名、養子縁組2名)	NPO 法人里親子支援機関
	翌1月～3月	6名(養育里親3名、養子縁組3名)	
広島	10月～翌1月	4名(養育里親3名、養子縁組1名)	乳児院・里親支援センター
山口	9月～11月	6名(養育里親1名、養子縁組2名、FH1名、その他2名)	里親養育サポートセンター
高知	11月～翌12月	6名(養育里親6名)	里親支援センター
熊本	9月～12月	6名(養育里親6名)	フォスタリングチェンジチーム熊本

合計 98名 ※親族里親やW登録は養育里親に含む ※その他⇒施設職員

2026 フォスタリングチェンジ・プログラム in北海道

興正里親支援センター
小野 実佐・佐藤 慧

12+思春期版

- 【実施主体】社会福祉法人常徳会興正里親支援センター
- 【実施期間】2025年9月12日～2025年12月12日(毎週金曜日) 10:00～13:30
- 【実施場所】社会福祉法人常徳会興正里親支援センター 2階
- 【参加里親】4名(養育里親4名) 出席率98%
- 【参加体制】ファシリテーター2名
- 【フォローアップ】2026年2月6日

○実施状況

2025年度は、当法人にとってこれまでのフォスタリング機関から里親支援センターへの移行期であった。その中で里親支援センターとして里子の自立支援が明確に求められることになり、4年ぶりに思春期版のプログラムを実施した。思春期版の開催は、通常版と比較して参加者が集まりにくく、前回実施時も自主的な参加の方が少なかったため、相談支援関係からプログラム参加が効果的だと考えた方に、こちらから参加を促していた。この間、通常版を実施しながら相談支援関係の中で思春期版のニーズを探ってきた。その中で思春期特有の悩みや葛藤を抱えている里親は多くいるものの、里子の年齢が高くなったことで里親自身が仕事を始めるなどプログラムに参加する時間的余裕がない方が多い。また思春期の子どもを養育している里親の高齢化による長い研修プログラム参加の負担感、新しいことを学ぶ意欲の低下などが感じられ、今回も参加者4名の内、3名はこちらから参加を促すという状況であった。

○プログラム時に工夫したこと

少人数だったこともあって時間的な余裕があり、家庭での実践の報告を丁寧に扱うよう心がけた。また、セッションの早い段階でそれぞれの里親が持つ力や良さを理解するよう努め、それをセッション内でファシリテーターが言語化して取り扱うことで、参加者同士が影響し合い学び合うような環境を目指した。

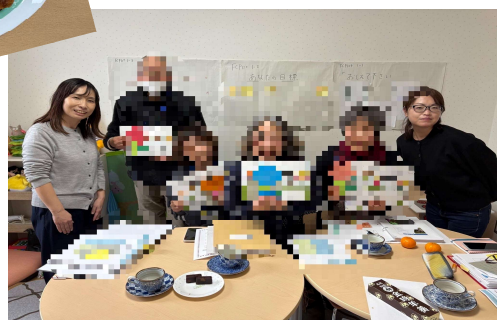
また、過去に通常版でセッションの途中参加を中止した方が、思春期版で改めて今回参加したため、コミュニケーションを密に取りながら、里親の心情や変化に気づけるように努めた。

○まとめと課題

参加者のプログラムに対する満足度も高く、里親家庭に良い変化が起こっている状況から、改めて思春期版のプログラムの効果を実感した。今回は参加者が養育する里子の課題の種類が異なっていたこともあり、互いの課題や困り感について、それぞれの立場で多角的・客観的な意見交換になることが多く、学びが深まったと考えている。

思春期の課題は里親にとっても向き合う際に心身ともに負担感や切迫感が強く、疲弊する中で、プログラムで築いた関係性が子どもの問題行動への理解に生かされるという機会があった。そのことから、プログラム終了後の支援がいかに重要であると改めて実感した。また、プログラム参加を通じて里親の人柄を知ること、新たな里子とのマッチングへと繋がったケースがあった。プログラムを通して当方と支援関係が築かれていたこともあり、スムーズに里親家庭へと移行することが出来ている。

今後の課題として、思春期を迎える里子に対して課題や困り感を感じているものの、プログラム参加までに至らないという点について、開催時期・曜日など実施体制・告知方法など改めて検討が必要だと考えている。



2026 フォスタリングチェンジ・プログラム in岩手

和光学園 斎藤 あずさ・遠藤 咲乃
一関藤の園 佐藤 道也 / 清光学園 高橋 佑太
大洋学園 志田 真理子 / 日赤乳児院 山口 瞳 / 大洋学園 新沼弘樹

- 【実施主体】里親支援センターぜんゆう
- 【実施期間】2025年9月3日～2025年11月19日 (毎週水曜日) 10:00～13:00
- 【実施場所】みちのく・みどり学園 こもりうたホール
- 【参加里親】4名 (養育里親3名、養子縁組1名) 出席率97.9%
- 【参加体制】ファシリテーター6名、スタッフ2名、児相職員1～2名

○実施状況

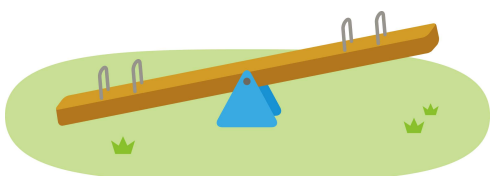
- ・プログラム開始直後から、参加者同士のかかわりの雰囲気が高く、回を重ねるごとにチームワークが高まっていった。休憩だけでなく、セッション前の喫茶コーナーの利用率も高く、その場で自然と会話が弾んでいる様子も見られた。
- ・参加者とファシリも、委託中の支援でかかわっているケースが多く、関係性作りもスムーズにできていたように感じる。

○プログラム時に工夫したこと

- ・思春期間近の里子を養育中の里親もいたため、12+のエッセンスも取り入れながら、セッションを構成した。

○まとめと課題

- ・1名1回の欠席のみで、期間を通してスムーズにプログラムを実施できた。スタッフ・ファシリの動きや流れなども安定してきている。
- ・無料で3か月使用できる会場の確保が難しい。
- ・機会を見ながら、対象となる里親には参加を勧めているが、自主的な参加には至らない場合が多い。
- ・プログラム初回で写真撮影の説明と同意取得を行ったが、今後、事前の家庭訪問時に行っていく。



2026 フォスタリングチェンジ・プログラム in茨城

社会福祉法人同仁会 さくらの森乳児院
西野 聡美・宮本 真木子・大野 秀子

- 【実施主体】 社会福祉法人同仁会 さくらの森乳児院
- 【実施期間】 2025年10月7日～2025年12月23日 (毎週火曜日) 10:00～13:00
- 【実施場所】 社会福祉法人同仁会 つくば同仁会子どもセンター
- 【参加里親】 8名 (養育里親7名、養子縁組1名) 出席率88.5%
- 【参加体制】 ファシリテーター3名、スタッフ1名

○実施状況

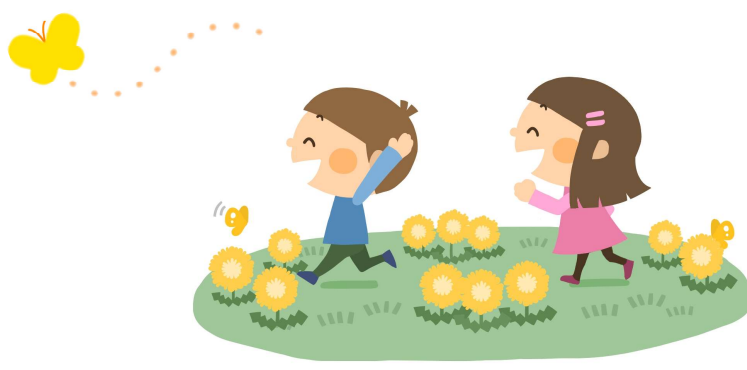
本年度は県内2ヶ所においてプログラムを実施することが整い、新ファシリテーターも交えながらの開催となる。本年度はインフルエンザの流行時期が早かったこともあり、里子や里親の感染症罹患や学級閉鎖等により、出席率へ大きな影響が見られた。また、委託児童の年齢や性別はさまざまであったが、お互いの悩みや対応に参加された里親それぞれが関心を示しており、徐々にではあったがグループがまとまる様子も感じられた。

○プログラム時に工夫したこと

今回参加された里親においては、委託児童の年齢層が大きくことなることや経験値が異なること、そして里親の年齢層も様々であったことから、参加者の経験や体験をまずは受け入れるということにより一層注力し、会場の空気感にも配慮をした。また、インフルエンザの流行により欠席者が多くいたことから、補講も可能であることをアナウンスし、欠席者が複数いたセッションにおいては合同での補講を実施。里親同士の繋がりも重視した対応を心掛けた。

○まとめと課題

家庭での実践におけるフィードバック等、里親からの話を伺う際には、一人あたりの持ち時間を伝えてはいたものの、たくさん話をしたい方も多くいらっしやり、タイムキーパーの重要性を改めて感じた。また、感染症の兼ね合いもあり、セッションの補講回数が増えたことで、終了証を手にされた後も会場に足を運んでいただくこととなったが、参加者の意識の高さにファシリテーターとしても感化されることとなった。今後もセッションを時間内に終わらせることを目標としつつも、参加者の理解度や定着度をしっかりと見極めた対応していきたい。



2026 フォスタリングチェンジ・プログラム in茨城

社会福祉法人誉田会 誉田養徳園 及川 かほり・片根 志雄
社会福祉法人同仁会 児童家庭支援センターあいびー 梅澤 摩耶・新山 美希

- 【実施主体】社会福祉法人誉田会 誉田養徳園
社会福祉法人同仁会 児童家庭支援センターあいびー
【実施期間】2025年10月17日～2026年1月16日(毎週金曜日) 10:00～13:00
【実施場所】社会福祉法人同仁会 児童家庭支援センターあいびー
【参加里親】6名(養育里親6名) 出席率93%
【参加体制】ファシリテーター4名、スタッフ1名、オブザーバー2名

○実施状況

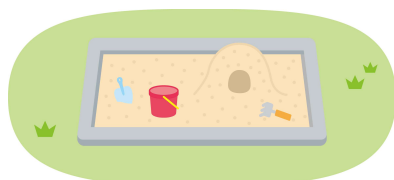
本年度は県内2ヶ所で開催出来ることになり、以前FCPを受講した里親も、オブザーバーとして数回参加して下さる。参加者は、養育から特養を進めている夫婦、セッション11の前に委託解除が決まった里親など様々であったが、日頃からサロンなどで顔見知りになっている里親もあり、自然とグループがまとまっていったように感じる。お子さんがインフルエンザに感染、学級閉鎖になったことで欠席された方もいたが、次のセッション終了後に補講を行っている。当初7名でスタートしたが、姉妹を受託している里親より、里子が落ち着かずプログラム参加中も学校から電話がかかってくるなど、プログラムを継続して受講できる状況にないとの話しがあり中断となった。来られるときは受け入れるという対応をとり、6セッションを受講している。

○プログラム時に工夫したこと

受託児や里親同士の年齢に大きな差はなく、お互いに相談や共感できる面が多かったのか、セッションを重ねる中で徐々に里親同士の距離も縮まった分、プログラム中に隣同士でお喋りが始まることもあり、座る順番の考慮や、ロールプレイを隣同士ではなく参加者の前で行ってもらうなどした。残り2回のセッションが年をまたいだため、年明け最初のセッション前に、それぞれの家庭に連絡を入れ、休み中の様子をうかがった。

○まとめと課題

初めてファシリテーターを行う職員においては、慣れない中でパワーポイントの資料に意識が向き過ぎ、参加者の状況や間をとることが難しいことがあった。また「ゴミ袋に自身の大切なものを入れる」という場面では、参加者に説明がうまく伝わっておらず里親からの感想にも挙がっていた。途中でプログラムを中断した里親についても「家庭での実践」で、他の参加者から「上手くいった」という話を聞くことがつらく感じていた様子も窺え、プログラム継続に向けたフォロー体制をどのように整えていくかが課題であると感じた。



2026 フォスタリングチェンジ・プログラム in栃木

里親支援センターTFC 畠山 憲夫・赤羽 朋子・湯澤 典子・齋藤 陽子
児童養護施設きずな 堀江 美景 / 児童養護施設桔梗寮 伊藤 幸恵
NPO法人だいじょうぶ 畠山 由美

通常版

- 【実施主体】里親支援センターTFC
- 【実施期間】2025年9月5日～2026年11月21日(毎週金曜日) 10:00～13:00
- 【実施場所】パルティ とちぎ男女共同参画センター
- 【参加里親】7名(養育里親7名) 出席率84.7%
- 【参加体制】ファシリテーター4名、保育委託事業者

12+思春期版

- 【実施期間】2025年9月30日～2026年12月16日(毎週火曜日) 10:00～13:30
- 【参加里親】4名(養育里親1名、養子縁組1名、ファミリーホーム1名、養育補助者1名) 出席率77%
- 【参加体制】ファシリテーター4名、保育委託事業者

○実施状況

今年度は9月から通常版と12+版をほぼ同時進行で計画。通常版のファシリテーターは、センター職員3名(初実施1名)と児童養護施設 里親支援専門相談員1名の4名で実施。2回目の実施となる12+版は、センター職員2名(初実施1名)と児童養護施設 里親支援専門相談員1名、NPO法人職員1名の4名で実施。

6月には作成したチラシをもとにPR開始。対象者にチラシを郵送するほか、支援に関わる里親等に個別に声掛けを行った。

○プログラム時に工夫したこと

- ・入室時は緊張を軽減できるような雰囲気づくりに努め、休憩に音楽を流したり声掛けを行うなど、リラックスできる雰囲気や居心地の良い空間づくりを心掛けるとともに、セッション中は、安心して語れる安全な空間を感じてもらえるよう配慮した。
- ・参加者の交流やリフレッシュできるようおやつ等を毎回準備したほか、12+は終了時間を考慮し、休憩時間に空腹を満たせる軽食等を提供した。
- ・12+は立場の違う里親(養子縁組里親1人、養育里親1人、ファミリーホームの職員2人)の参加のため、ペアを組む時や事例を紹介する時などそれぞれの実情に合わせられるように考慮した。

- ・毎セッション後にファシリテーターの振り返りや次週の準備を実施し、欠席者へは毎回ZOOMにてフォローを実施。
- ・託児を必要とする場合、外部委託により子どもの預かりを実施した。

○まとめと課題

回を重ね緊張がほぐれてくると、主体的にLINEグループを作ったりして里親同士がつながる様子が見られ、出席のモチベーションになり、共感や励ましなどの一体感が生まれた。募集に関しては、思春期の子を持つ里親は働いている方が多く、参加者を集めることが難しい。また、所属機関の行事や感染症蔓延等によるやむを得ない欠席ではあるが、今年度は通常版、12+版ともに皆勤者はなく欠席が多かったように感じる。5年目にして初めての中途辞退があり、曜日をランダムで開催して欲しいとの感想もあった。開催日時の設定等については今後も検討を要する。



2026 フォスタリングチェンジ・プログラム in神奈川

こどもみらい横浜

福島 里美・野澤 実希・宮地 恵子・石井 典子

【実施主体】一般社団法人 こどもみらい横浜
【実施期間】2025年9月11日～2026年12月4日 (毎週木曜日) 10:00～13:00
【実施場所】万国橋会議センター
【参加里親】5名 (養育里親4名、養育縁組1名) 出席率93%
【参加体制】ファシリテーター4名
【フォローアップ】2026年1月15日(木)10:00～13:00 8期生フォローアップ
2026年1月22日(木) 10:00～13:00 7期生フォローアップ

○実施状況

- ・本プログラムを受講した里親からの勧めで多数の申し込みがあった。
- ・今年度は初回から里親同士で積極的にコミュニケーションを取る様子が見られた。子育ての情報交換をしたり、積極的に声を掛け合い助け合う姿があった。
- ・回を追うごとに深まっていくセッション内容と合わせて里親自身の生い立ちを整理し、養育上の悩みや里親自身の抱える想いを素直に打ち明けることができるようになっていった。
- ・最終回では終了後に参加者同士で集まる話も出ており12回の研修に参加することで里親同士の繋がりがとても強く深いものとなった様子があった。

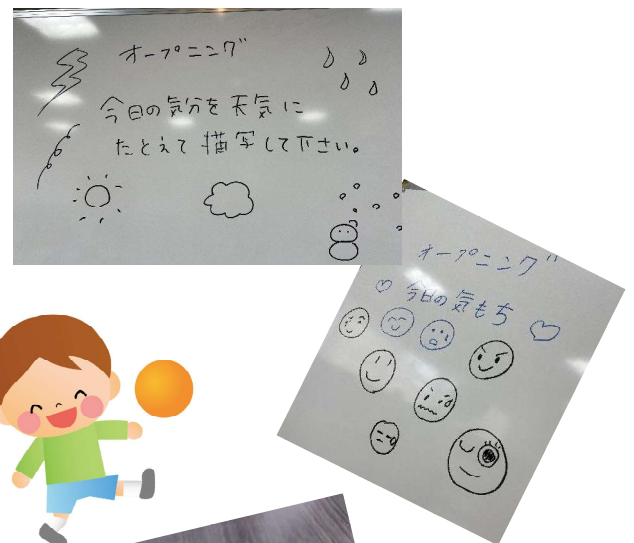
○プログラム時に工夫したこと

- ・里親子の体調不良で会場にこられない時は、自宅で研修を受けられるように会場とテレビ電話で繋ぐ等の対応をした。
- ・欠席した回については資料を郵送し電話にてフォローを行った。
- ・明るい気持ちで参加できるよう会場の装飾の工夫をし、カフェコーナーを充実させることで息抜きする時間を設けた。



○まとめと課題

- ・前年度は12回連続講座の合間に休みがあると良いとご意見を頂いたため、今年度はセッションが半分過ぎたところで1週休みを入れた。休み明けはどの里親もリフレッシュした様子で参加することが出来ていた。
- ・セッション内容に集中することが難しいとのご意見もありメリハリをつけた提示や参加方法を工夫する必要があった。
- ・参加者からのご意見を取り入れながら対応をしていくことでお互いに信頼関係を崩すことなく12回のセッションを無事終えることが出来た。
- ・参加者と一緒に作り上げていくという姿勢が大切だと感じている。



2026 フォスタリングチェンジ・プログラム in神奈川

相模原市里親養育包括支援センター
長田 順子・平山 みゆき・内山 博子・田中 結

【実施主体】相模原市里親養育包括支援センター ふうせんかずら
【実施期間】2025年9月9日～2026年12月2日(毎週火曜日) 10:00～13:00
【実施場所】相模原市里親養育包括支援センター ふうせんかずら
【参加里親】5名(養育里親3名、養育縁組2名) 出席率95%
【参加体制】ファシリテーター4名、スタッフ2名
【フォローアップ】第2期(2024年度)受講者向け 12月9日

○実施状況

- ・開始当初参加里親は、プログラムへの緊張は持ちつつも里親同士顔見知りが多く、またこどもの年齢が近い等の共通点もあり、安心できるグループが形成されていた。
- ・セッションを重ねるごとに、参加里親がロールプレイから自身の子どもへの関わり、子どもが感じているだろうことを感じ取ったり、メンバーの長所に気付き支え合う等、グループの力が発揮されていった。

○プログラム時に工夫したこと

- ・時間管理をスムーズに行うために、時刻とカウントダウンタイマー機能のついた時計を設置し、参加里親にも見えやすく、協力を得やすいようにした。
- ・“褒める” “感情に名前を付ける”等をいつも意識できるよう、当該セッション時にワードを模造紙に書き、以降も最終日まで毎回掲示し、新たなワードが表出された際には書き加えていった。“褒める” “感情”は、様々なセッションで繰り返し出てくるため、掲示物があると、ファシリテートする際にもスムーズだった。

○まとめと課題

3回目の実施となり、エクササイズやロールプレイ等の目的等を意識したり、参加里親の反応等を予測し準備すること等が少しずつできるようになってきた。

リフレクティブリスニングでは、ファシリテーターが行う見本のロールプレイのストーリーの終わり方によって、問題解決の方略と思わせてしまい修正が必要となった。ロールプレイのストーリーの見直しや、より分かりやすい説明等ができるよう工夫していきたい。



2026 フォスタリングチェンジ・プログラム in神奈川

唐池学園 川本 由美子 / 白十字会林間学校 石井 千代子
ゆりかご園 安立 七恵 / 鎌倉児童ホーム 宮崎 千鶴子 / 心泉学園 磯貝 喜美子
手まり学園 石川亜沙美 / 里親センターひこばえ 石井千佳子

【実施主体】神奈川県家庭養育支援センター&里親センターひこばえ
【実施期間】2025年4月18日～2025年7月4日(毎週金曜日) 10:00～13:00
【実施場所】里親センターひこばえ
【参加里親】6名(養育里親6名) 出席率97.2%
【参加体制】ファシリテーター4名、タイムキーパー1名、他スタッフ2名
【フォローアップ】Zoom(1時間程度)

○実施状況

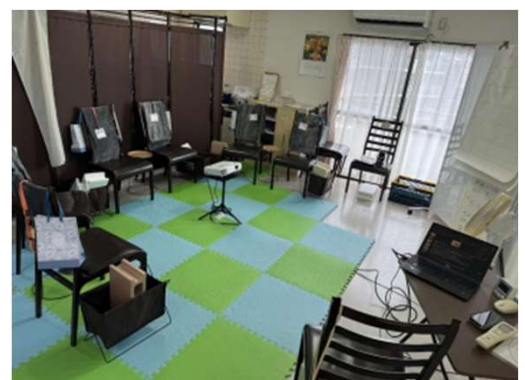
- ・神奈川県としては2回目の実施
- ・離脱する参加者はなく、欠席2名(家庭の事情でそれぞれ1日)

○プログラム時に工夫したこと

- ◆グループの話し合いを意識した。初回の開催時、ファシリが課題や問題に対して‘どうにかしたい’‘解決したい’という気持ちが 前に出た講義形式が解消された。
- ◆セッション半ばで、養成講座講師にコンサルテーションを依頼
 - ・参加者同士とファシリとの席の位置関係でアドバイスを受け部屋のレイアウトを変更→グループでの意見交換などが活発になった。
 - ・パワポ資料配布のタイミングのアドバイスを受け変更→グループがセッションに集中し聞き返しが減り、グループ内の意見交換が増えた。
 - ・板書へのアドバイスを受け変更→ファシリと参加者が「評価する人、される人」の関係をつくっていたかも?の解消に向けた印象を受けた。

○まとめと課題

プログラム後半から発言するようになったメンバーの話しが、セッションから広がった話(養育の困り感等)になり、メンバー同士のやり取りも含まれている時の時間の管理→話を切り替えるタイミング・かける言葉・ファシリの心持ち。



2026 フォスタリングチェンジ・プログラム in山梨

(福)子育て・発達の里
エール里親支援センター 清水 宣子・浅川 文乃
乳児院ひまわり 市川 千絵 / くずはの森 田村 由美子

- 【実施主体】(福)子育て・発達の里 乳児院ひまわり
社会的養育機関エール里親支援センター
【実施期間】2025年10月17日～2026年12月26日(毎週金曜日) 10:00～13:00
【実施場所】社会的養育機関エール里親支援センター 法人会議室2
【参加里親】4名(養育里親4名) 出席率97%
【参加体制】ファシリテーター4名、スタッフ1名
【フォローアップ】令和8年2月27日(金) 10:00～13:00 法人会議室2

○実施状況

山梨県では、9回目の実施である。今年度は新たにファシリテーター1名が加わり、ファシリテーター4名で実施した。10月頭からの開催予定であったが諸事情で1週間延期してもらい実施した。4名の参加者のうち、周知後すぐに申込をした方もおり、現状の困りごとに対処したい気持ちからか、各回プログラムに真剣に参加してくれた。

ロールプレイでは、最初は緊張感もあったが、回数を重ねた後「私に見せて」の技法を用いてこどもの様子を自主的に再現してくれた里親がおり「演じてみてなぜかすっきりした。こどもの気持ちが少しわかった。」と感想があり、ロールプレイの意義を感じた。

○プログラム時に工夫したこと

家庭での実践の振り返りは毎回丁寧に扱うことができた。また、簡潔に応えてくれる方が多数だったため、その時の状況や里親さんの対応などを他の参加者に想像してもらい、解決策を探っていけるよう深掘して質問し、発言を促した。

参加者へのおもてなしは、季節を意識した菓子や装飾をし、誕生日が近い参加者へ、誕生日の日付に合わせ、お祝いの気持ちが伝わるような菓子なども用意した。最後の贈り物には参加者それぞれに向けた色紙や花を用意し、達成感と安堵感を皆で共有した。



○まとめと課題

こどもの行事によって1セッション欠席した方が1名いたが、それ以外は全回参加して下さった。参加者の真摯な態度は、家庭でのこどもの養育を想像させ、ファシリテーターも良い影響を受けた。

こどもの年齢や特性によってはスキルが実施できない場面もあり、苦勞している参加者がいたが、今まで家庭で実践してきたことを研修のなかで概念化・言語化され、改めてロールプレイによって体験できたことは参加者の自信にもつながっているのではないか。

回を重ねるうちに、ネームプレートに名字を書いていた方が「〇〇ちゃんと呼んでください」と打ち解けていった様子もあった。同年代の里親子が多かったため参加者同士の関係をより深くできるようファシリテーターとして話を促すことができればよかった。また、ロールプレイの対応がわからないと感想をいただく回もあったため、里子の年齢(3～7歳)に合わせた例を多く用意しておく必要性や参加者のこどもにあった、説明の仕方や実施方法を考える必要性を課題と感じる。



2026 フォスタリングチェンジ・プログラム in長野

長野県諏訪児童相談所 片倉 宜子
つつじが丘学園 宮尾 飛鳥

- 【実施主体】長野県諏訪児童相談所、つつじが丘学園
たかずやの里、こごみのねっこ
- 【実施期間】2025年9月5日～2025年11月21日 (毎週金曜日) 9:30～12:30
- 【実施場所】たかずやの里会議室（伊那市）
- 【参加里親】4名（養育里親2名、ファミリーホーム2名）出席率97%
- 【参加体制】ファシリテーター2名、スタッフ3名、保育1名
- 【フォローアップ】2026年2月25日（水）9:30～12:30

○実施状況

諏訪児童相談所管内で初めての実施で、児童相談所・2つの児童養護施設・民間フォスタリング機関の4機関で協働して開催した。参加者は養育里親2名とFH補助員2名だった。全体を通して参加者の皆さんの意欲が高かった。参加者から学び合う場面もありアットホームでサポートティブな雰囲気で行進した。

○プログラム時に工夫したこと

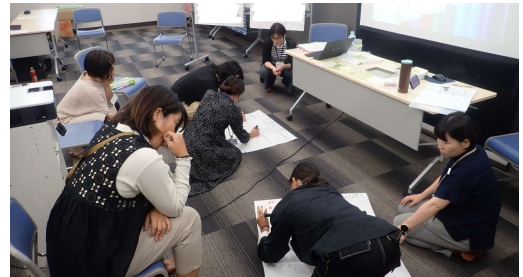
ファシリテーターに実践経験がなかったが、本番前の事前練習を通じてスタッフ全員がプログラムの流れや意図を共有し、進行上の課題を洗い出した上で本番に臨むことができた。各セッションにおいて打ち合わせを実施し、用語やアクティビティの目的の確認をした。

プログラム本番で参加者の理解が難しい内容を扱う場面ではファシリテーターの投げかけや用語の補足を行うよう工夫した。また、家庭での実践の振り返りと家庭での実践の準備の時間を確保できるように心がけた。

○まとめと課題

家庭での実践を通して里親子関係にポジティブな変化がみられ、効果的なプログラムだと感じた。

初めての実践ということもあり各セッションの準備に要する負担は大きかった。そうした中でもスタッフ所属機関の理解や実践経験を持つ県内の先輩ファシリテーターのサポートは心強かった。プログラムを継続して実施するには、ノウハウの蓄積・共有や横のつながりは大切だと感じた。



2026 フォスタリングチェンジ・プログラム in長野

うえだ里親支援センター 大川 裕里恵・丸山 桃子

- 【実施主体】 うえだ里親支援センター
- 【実施期間】 2026年1月9日～2026年3月27日 (毎週金曜日) 10:00～13:00
- 【実施場所】 うえだ里親支援センター
- 【参加里親】 4名 (養育里親3名、養子縁組1名) 出席率93.8%
- 【参加体制】 ファシリテーター2名、スタッフ2名

○実施状況

管轄内の2か所の児童相談所協力のもと公募。自宅から1時間以上かかる里親さんからの応募もあり、広域からの参加者4名が募った。過去の受講生からの口コミで参加につながった方もいる。

○プログラム時に工夫したこと

里親同士が初めて顔を合わせるということもあり、休憩時間を最低15分は必ず確保するようにし参加者同士が気軽に話をする場面を大切にしました。

家庭での実践のフィードバックの際は、他の方からの意見も聞くように心がけた。

○まとめと課題

今回、重度知的障がいのお子さんの養育をしている里親や、子どもとの関係に悩んでいる里親の参加もあったが、里親同士でアドバイス出し合う姿や褒め合う姿が見られた。翌週にはアドバイスの効果も発揮されたとお話もあり、里親の持つ力が大きく発揮された3ヶ月であった。

養育しているお子さんの年齢層の幅が大きい時に、セッションの中でイメージが沸きにくい里親もいたためファシリテーターの伝え方の工夫が必要だと感じた。



2026 フォスタリングチェンジ・プログラム in静岡

認定NPO法人 静岡市里親家庭支援センター 佐野 多恵子・杉田 絵里奈
児童養護施設 静岡ホーム 有ヶ谷 珠穂

- 【実施主体】 認定NPO法人 静岡市里親家庭支援センター
- 【実施期間】 2025年5月8日～2025年7月17日 (毎週木曜日) 9:30～12:30
- 【実施場所】 静岡市児童相談所内 大プレイルーム
- 【参加里親】 6名 (養育里親5名、ファミリーホーム1名) 出席率91.7%
- 【参加体制】 ファシリテーター3名、アシスタント1～2名
- 【フォローアップ】 2025年11月21日 (金) 13:00～15:30

○実施状況

静岡市は体系別研修プログラムにFCPを組み込んでいる。乳幼児のアタッチメント研修受講後、次の段階として就園後から小学校中学年までの里子(養子)を養育中の里親を対象に受講することとなっている。今年度は6名が参加する運びとなった。各研修における参加対象年齢を明確にしているため、里親は養育中の子どもの年齢でFCP受講のタイミングを見通せる仕組みになっている。

○プログラム時に工夫したこと

養育・養子縁組里親の参加者6名のうち2名が特別養子縁組をしている。社会的養護(出身)の子どもであるという点では、参加者がFCPで使う各方略とも有効であった。

ファシリテーターは、事前に縁組や委託に至る経緯、子どもが示す行動や発達段階、現在の養育状況を丁寧に把握し共有した。各家庭の子どものこれまでの歩みや現在の状態に寄り添い、子どもの特性や発達段階に応じて示される行動の背景を丁寧に解説し、その子どもにとってどのような関わり方が適切かを参加者それぞれが整理できるよう言い回しの工夫や、具体例を用いた説明を行った。また、必要に応じて個別に補足やフォローを行い、それぞれの家庭の実践へと円滑につなげられるよう環境を整えた。

○まとめと課題

参加者それぞれの家庭状況や、子どもの特性を踏まえながら進行することで、学びを個別の実践に結び付けることができた。社会的養護を経験した子どもが安心安全に生活できる環境づくりに向けて、参加者は新たな視点や関わりを獲得し、自身の養育者としての気づきや向き合い方を振り返る機会にもつながった。

今後の課題:子どもの行動理解や感情面のケアは、長期的な支援を要することから、研修で得た方略を継続的に活かせるようフォローアップの機会を設ける必要があるように感じる。

R7.11.21(金)同窓会実施予定。



2026 フォスタリングチェンジ・プログラム in大阪

里親子支援機関 えがお 牧野 博子・友野 裕美
児童養護施設 清心寮 横山 泰直 / 里親支援センターつむぎ 高橋 宗近

12+思春期版

【実施期間】2025年5月10日～2025年7月27日(毎週土曜日) 10:00～13:30
【実施場所】門真市民プラザ(中央管内)
【参加里親】3名(養育里親1名、養子縁組2名) 出席率94%
【参加体制】ファシリテーター3名、スタッフ1名、保育2名、オブザーバー1名
【フォローアップ】2025年11月21日(金) 13:00～15:30

通常版

【実施期間】2026年1月12日～2026年3月28日(毎週土曜日) 10:00～13:00
【実施場所】北助松自治会館(貝塚管内)
【参加里親】6名(養育里親3名、養子縁組3名) 出席率90%
【参加体制】ファシリテーター3名、スタッフ1名、保育3名、オブザーバー3名

【終了生フォローアップ】

4回開催 9/26(金)、10/10(金)、10/17(金)、11/27(金)

【デモンストレーション】

豊中市 9/9(火)、10/14(火)、11/11(火) 名古屋市里親会10/19(日)

○実施状況

12歳以上、12歳以下と2回開催。地域は大阪府中央管轄と大阪府貝塚管轄。受講者は養育里親、養子縁組里親、親族里親と幅広く受講されている。受講後「人生が変わった」と仰られた里親もあり、充実した研修になったと感じている。

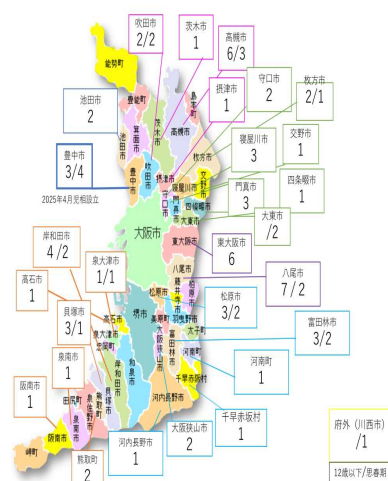
○プログラム時に工夫したこと

スタッフには修了生を配置。受講者と顔なじみのスタッフもあり、受講者が安心して受講されていたと感じる。また託児担当にも修了生に入ってもらうことで、里子の保育を通して受講者の気持ちに寄り添い、FCP全体で受講者を支えることにつながった。また、未委託の里親さんには対象児童を実子にして取り組んでもらうことで受講者の幅を広げるとともに里親家庭全体で里子を支えていくという意識につながったという感想もいただいた

○まとめと課題

大阪府では7年間で延べ87名の里親がFCPを受講し、なかには2回目を受講しながら前回受講したときとはまた違った悩みを抱えながら取り組まれて養育の質の向上を目指されている。年々受講者の確保が難しくなってくるなかで、今回未委託の里親に実子対象で研修に臨んでいただいたことには大きな成果があった。大事なことは里親における養育の質向上であり、委託がなくても悩んでいる里親には受けていただく必要はあり、そこに効果があることも検証できた。毎年継続した研修事業にしていけるためにも様々なアイデアを用いながら素晴らしい研修として今後も取り組んでいく

養子	24	養育	55
ファミリーホーム	5		
補助者	1	親族	2
管区別			
箕面C	9	吹田C	15
中央C	15	東大阪C	15
富田C	15	貝塚C	17
府外	1		
男性	18	女性	67
再受講者(男性)	1	女性	2
12歳以下(男性)	2	女性	8
・12歳以下			
2019年 9月～11月(金)	8		
2020年 9月～12月(金・土)	12		
2021年 9月～11月(金・土)	10		
2022年 5月～7月(木)	6		
2023年 5月～7月(火)	5		
2023年 9月～11月(火)	5		
2024年 5月～7月(火)	6		
2026年 1月～3月(土)	6		
・12歳以上(思春期)			
2021年 2月～6月(金)	4		
2022年 9月～11月(月)	4		
2023年 1月～3月(月)	4		
2024年 9月～11月(火)	6		
2025年 1月～3月(火)	3		
2025年 5月～7月(土)	3		
合計	87名		



2026 フォスタリングチェンジ・プログラム in広島

社会福祉法人広島修道院
藤本 真紀・大田 直枝・藤井 菜月・矢原 環

【実施主体】社会福祉法人広島修道院 里親支援センターからふる
【実施期間】2025年10月28日～2026年1月20日(毎週火曜日) 10:00～13:00
【実施場所】社会福祉法人 広島修道院 講堂
【参加里親】4名(養育里親3名、養子縁組1名) 出席率94%
【参加体制】ファシリテーター4名
【フォローアップ】2026年3月17日10:00～12:00
参加里親4名、ファシリテーター4名

○実施状況

参加者の年齢が近く、最初からうちとけた雰囲気、意見交換も活発だった。受講者の理解が早く、的確な質問でファシリテーターが助けられる点多々あった。解釈のずれもほとんど感じられなかった。

○プログラム時に工夫したこと

事前聞き取りの結果、受講者の困り感が少ないと感じられる点もあったので、ニーズをくみとり、受講者の関係づくりにも力を入れた。受講者の反応、1回目、2回目のセッション後の評価をもとに、前回の家庭での実践のフィードバックを丁寧に行った。結果として、そこから更に議論が発展することも多く、受講者だけでなく、ファシリテーターも新たな気づきをもらうことが多くあった。

欠席者には、次回までの間にフォローアップを行うとともに、次のセッションの冒頭で少し時間を取って、前々回のフィードバックを話してもらい、疎外感を持たれることがないようにした。



○まとめと課題

前年の反省を踏まえ、ファシリテーターの打合せ、振り返りの時間を多めに設けた。ベテランファシリテーターの解説を聞くことで新しいファシリテーターの理解が深まり、また、新しいファシリテーターの疑問を聞くことで、ベテランファシリテーターの考えが深まったりした。ただ、セッションの振り返りでは、受講者の反応、評価の確認など全体的なことが主になってしまったので、もう少し時間を取って、この人はこの日どうだったかという確認や共有、実践のフィードバックでのキーワードに着目してみるなど、個別の振り返りがもう少しできればよかった。

困り感が少ない人が多く、養育の悩みがあまりないと感じている人にどうアプローチしていくかということについて悩ましいと感じることがあったが、困り感の有無だけではかるのではなく、自分自身のことを決めていけるようになるプログラムであることをファシリテーターもしっかり理解しておく必要があると感じられた。

参加募集方法、開催曜日、時間など、受講者を集める工夫は引き続き考えていく必要がある。



2026 フォスタリングチェンジ・プログラム in山口

里親養育サポートセンターれりーふ 田坂 仁・藤井 有紀
山口育児院 中内 圭一 / ライクホームはるか 坂岡 亜由美

- 【実施主体】里親養育サポートセンターれりーふ
- 【実施期間】2025年9月12日~2025年11月28日 (毎週金曜日) 10:00~13:00
- 【実施場所】社会福祉法人 防府海北園
- 【参加里親】6名 (養育里親1名、養子縁組2名、ファミリーホーム1名、その他2名) 出席率92.4%
※1名初回受講後中断出席率は2回目以降は5名分
- 【参加体制】ファシリテーター3名、スタッフ1名
- 【フォローアップ】
2025年6月13日(金)10:00~12:00 (2018~2024年度受講者対象)
2026年3月13日(金)10:00~12:00 (2025年度受講者対象)

○実施状況

全セッション対面で実施。会場は県中部。里親4名、施設職員2名の計6名でスタートし、1名(養子縁組)は初回受講のみで受講を辞退された。途中欠席されることはあったが、全員(5名)修了することができた。

○プログラム時に工夫したこと

ファシリテーターは前年度と同じメンバー3名で行ない、他1名がサポート役を行なった。事前の打ち合わせ時に、前年度の振り返りを参考にしていたので、改善がしやすかった。

ホームプラクティスの説明をする時に、口頭だけでは伝わりにくいこともあったので、ファシリテーターが見本を作成したものをスライドに載せて説明をした。受講者に伝わりやすくなったということもあるが、ファシリテーターも書き方を改めて考える機会にもなった。

欠席者へのフォローは、別日に来園いただいて実施したり、欠席扱いにはなるが遅れてでも当日参加したいと話され、全体のセッション後個別にフォローする時間を設けた。

○まとめと課題

参加者同士の関係も良く、とてもいい雰囲気であった。参加者より、褒めるセッションがとても良かったから別の時にもまたやりたいという意見があり、通常より褒めるエクササイズを取り入れたりした。

セッションによっては分かりにくい内容もあるため、ファシリテーターがわかりやすく伝えるスキルを身につける必要がある。合同アフターセッションは初年度の受講者から今年度の受講者を対象にしてご案内しているが、参加率が低いことが課題である。



2026 フォスタリングチェンジ・プログラム in高知

里親支援センター結いの実
楠瀬 理歩・森光 綾子

- 【実施主体】 里親支援センター結いの実
- 【実施期間】 2025年11月15日～2026年2月7日 (毎週土曜日) 10:00～13:00
- 【実施場所】 高知支部複合棟misono
- 【参加里親】 6名 (養育里親6名) 出席率90.2%
- 【参加体制】 ファシリテーター2名、オブザーバー2名、保育1名 (適宜)
- 【フォローアップ】 2026年3月9日 (月) 10:00～13:00 (1～4期生)
2026年5月16日 (土) 10:00～13:00 (5期生)

○実施状況

同センターでは、今回でFCP本プログラムの開催が5回目となった。初の土曜日開催にしたためか、これまでで最も多い6名の参加者が集まった。そのうち、1名が仕事の都合等で欠席が3回 (最終回含む) を超えたため、研修修了には至らなかった。しかし、後日個別で最終回を行い、他の里親からのプレゼント等を渡すことができた。

○プログラム時に工夫したこと

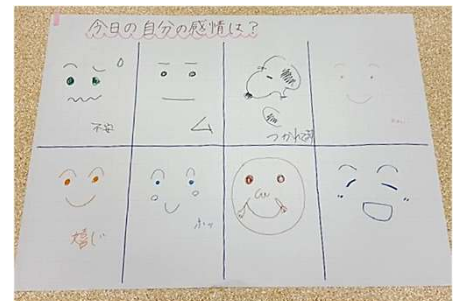
今回、基本を土曜日の開催にしたため、託児が必要な場合には、訪問支援員等が対応した。

飲食スペースについては、研修を受講する場とは別に設置した。休憩になると里親が自然とそこに集まるようになり、ファシリテーターが介入しなくても里親同士でのコミュニケーションが促進されていた。

また、自分の生い立ちから里子への対応に葛藤している様子の里親がおり、その里親自身がFCPの中で温かく受け止めてもらえるよう、ペアワークの相手を考慮した。ファシリテーターも毎回反省会でその里親への対応を慎重に話し合った。それぞれの里親の生い立ちが噴出した際には、温かい雰囲気の中で受講できるよう傾聴の姿勢で臨むということを確認し合いながらセッションを進行した。後半からはその里親の表情も柔らかくなり、FCPの方略を使用する中で成功体験もでき、里子との関係が落ち着いていく様子が見受けられた。

○まとめと課題

土曜日の開催は託児が必要な場合や、里親が子どもと過ごす時間が減る等の課題もあるが、これまで興味はありながらも平日の参加が難しかった里親が、まだ一定数いるのではないと思われるため、次年度も土曜日開催で行う予定である。また、参加者を確保するためにも、次年度は12+と本プログラムの体験会を1回ずつ行い、高年齢児を養育する里親のニーズを探った上で、開催するプログラムを決定していきたい。



2026 フォスタリングチェンジ・プログラム in熊本

里親支援センターきらきら 田中 一幸

里親支援センターアグリ 傘 正治 / 里親支援センターゆうり 池上 里美

- 【実施主体】 フォスタリングチェンジチーム熊本
- 【実施期間】 2025年9月18日~2025年12月4日 (毎週木曜日) 10:00~13:00
- 【実施場所】 慈愛園地域交流スペース さんさん
- 【参加里親】 6名 (養育里親6名) 出席率92%
- 【参加体制】 ファシリテーター3名、スタッフ2名、オブザーバー1~2名
- 【フォローアップ】 半年後に実施予定

○実施状況

昨年度は参加希望者が少なく開催を断念したが、今年度は5名の養育里親、1名施設職員で開催した。この研修に対する参加者一人一人の意識の高さを感じながら、毎セッションを開催することができた。

○プログラム時に工夫したこと

- ・2年ぶりの開催と言うこともあり、ファシリテーターとして事前の準備をしっかりと行った。また、ファシリテーターのグループLINEを作成し、セッションで気になる点や不安などについても常に全員で共有をできるようにした。
- ・会場も空間的に安心感が持てる広さ、駐車場の心配がない会場を設定した。
- ・参加者の座る席に関しては自由としたが、ロールプレイなどのペアに関してはファシリテーターが指定し、全員が交流できるようにした。

○まとめと課題

- ・参加者全体の意気込みを強く感じ、家庭での実践も積極的に取り組んでおられて、フィードバックの時間が有意義なものとなったのではないかと感じた。一方で、参加者の一人ひとりの質問に丁寧に答えていく(参加者の様子を見ながら言い方を色々変えたりした)ことで時間が押してしまい、時間調整の難しさを感じた。
- ・参加者の中にムードメーカー的存在の里親がいてくれたことはグループの親和性を高めることに大きな力となった。また、ある里親さんは、最終日にはクリスマスプレゼントとして、参加者全員に委託児童と一緒に作ったリースを配られた。
- ・人生経験が長く、それなりの価値観を持っていらっしゃる里親さんに対してどのようにプログラムの内容を伝えていくか。表面では理解をいただいている様子では

あるが、発言の端々にはその方の価値観が優先されていることが窺えた。

- ・ファシリテーター同士の連携の大切さ、また、改めて事前の準備の大切さを感じた。
- ・家庭での実践が難しかったという里親さんに対してのフォローの仕方。
- ・セッションを休んだ方に対してのフォローの難しさ。ファシリテーターと参加者の日程調整の難しさがあり、しっかりと時間を設定して行うことができなかった。
- ・ファシリテーター自身の継続的なスキルアップの向上と維持。そのために、今後は、次回開催時のファシリテーターのメンバーはオブザーバーに入ってもらうなど検討していきたい。また、オブザーバーの人数の設定、参加者に対してオブザーバーが入る目的の説明も必要だった。
- ・開催時期中、インフルエンザが流行した時期と重なり、体調不良で欠席される方、委託されている児童が感染しその看護で欠席となられた方もいたため、開催時期に関しては要検討である。



ファシリテータ フォローアップミーティング

各地域でのプログラム実施を円滑なものにするため、養成講座終了後もファシリテーターが集まり、疑問点の解消や支援者同士の繋がりを共有する「ファシリテーターフォローアップミーティング」を実施しています。今年度もオンラインにて計3回開催されました。

オンライン開催

▶第一回目 2024年7月10日 参加者14名
参加地域: 茨城、長野、神奈川、愛媛、沖縄

▶第二回目 2024年11月25日 参加者7名
参加地域: 福島、東京、神奈川、静岡、山口

▶第三回目 2025年2月27日 参加者27名（内見学者1名）
参加地域: 栃木、千葉、神奈川、新潟、山梨、三重、大阪、広島、山口、長崎

参加者ご感想

- ★他県のファシリテーターの実践の様子が伺えると同時に心配や、不安や、喜び、達成感が共感出来て嬉しかったです。様々な角度からの話が聞けること、新たな発見があること、今後のFCPへの取り組みに活かそうと前向きになりモチベーションがあがりました。
- ★実施の期間や場所など、今後もまだまだ検討する余地がたくさんあるのだなと感じました。また、養成講座にて同期だったファシリの方のお顔も見れて、とても嬉しい気持ちと、実施に向けて頑張っておられる様子が自分にとっても励みになりました。
- ★上鹿渡先生、松崎先生からのアドバイスを受けられたので良かったです。
- ★次につながるヒントをもらえた。今期のまとめと振り返りができた。
- ★セッション以外にもお花を生けたりお弁当を用意する取り組みなど、素晴らしいと思った。皆さんがFCPを継続する為の努力を感じ、自分がファシリテーターとして自覚に欠けている部分を感じ真摯に取り組んでいこうと思いました。

考察

今年度でファシリテーター数は384名を達し、FCP実施も毎年行っている機関が増えフォローアップミーティングへ参加が恒例になっている機関から、実施計画をするも参加者が増えず苦戦している機関、これから実施するにあたって不安を抱えている機関など様々な状況での報告が行われている。

全体的に、FCPの実施回数を重ねている機関では課題や改善点が明確になりチームワーク力がつき、結果、地域全体を盛り上げていると思料している。また、実施において悩みを抱えているファシリテーターにとっては、それらは大きな参考となり、同時に先生方からのアドバイスも直接聞けるとあってモチベーションにも繋がっている。

課題としては、毎年3回目の開催に参加が集中するため各発表の時間が短くならざる得ない傾向にある、開催時期や参加条件などを見直し分散する仕組みを考えていきたい。

プログラムに関する里親の評価

プログラム終了後、13都道府県にて計13カ所（北海道、岩手、茨城、栃木、神奈川、山梨、長野、静岡、大阪、広島、高知、山口、熊本）の受講者97名に対して、調査を実施致しました。

◆もっとも役に立つと思った考えやスキル（1人5つまで回答可）

スキル名	回答数
・アテンディング	58名
・リフレクティブ・リスニング	46名
・効果的に褒める	45名
・その他	40名
・選択的無視	35名

◆子どもの行動の変化（5段階評価 1ひどくなった⇔5大変よくなった）

実施場所	所の合計	対象児（回答者93名）	平均点	4.13点／5点満点
実施場所	所の合計	きょうだい児（17名）	平均点	4.00点／5点満点

関係性

- 里親への信頼感があがり、それに伴い話が通じやすくなった。
- どうしたら良い方向に向かうのか、あるいはどうしたいかを話し合えるようになった。
- こちらの話に耳を傾けてくれるようになった。
- 子どもの方から、里母をぽんぽん程度だが触るようになった。
- 目を見て話すことが多くなった。
- 悪いことをしたと思った時、素直に謝ることができるようになった。
- 自分の考えや意見を言うようになった。
- 本音で言いにくいことや辛いことも言ってくれる。
- 不安で興奮しているときは指示を与えるのではなく、気持ちを聞いて名前を付けてハグをする。そうすると落ち着いて自分で遊べるようになった。
- 約束を守ることができるようになった。

感情調整

- 自分の気持ちをしっかり言葉で言えるようになった。
- 態度ではなく言葉で表現しようとする姿が増えた。
- 癪癪、イライラ、気持ちの切り替えの時間が短縮された。
- 必要以上に大きな声を出さなくなった。
- 褒められる事をすごく喜ぶようになった。
- あきらめず「がんばる！」と言うようになった。
- 怒ったような言い方が減った。
- 物事をポジティブに受け取ろうとするようになった。
- 褒められたい気持ちを持つようになった。
- できることが増えて自信がついた。
- 明るくなった

行動

- 反抗的な行動や、すぐ手が出る等が減少した。
- 褒められると喜び意欲的に行動する日が増えた。
- 前よりもすすんでお手伝いをするようになった。
- 物をなげる回数が少なくなった。
- 考えを字で起こして整理する練習ができるようになった。
- 行動の切り替えがスムーズになった。
- 何事にもチャレンジするようになった。
- 自分の事を自分でできることが増えた
- 困ったとき一人で抱え込まず助けを求める行動が見られた。
- 苦手なことも少しだけやってみようとなった。

学校

- 学校での話も増えた。
- 宿題に機嫌よく取り組めるようになった。
- お友達が見えてきた。
- 嫌なこと(遊んでもらえないなど)を少し話してくれるようになってきた。
- 勉強を以前よりも頑張るようになった。
- 帰宅後の癪癢がなくなった。

その他

- 食べ物の好き嫌いが減った。
- 寝かしつけの時間がかからなくなった。
- 前よりも自信がついたように見える。
- ウソをつかなくなった。
- 集中力が伸びてきた。
- 自分のことについて良く（深く）考えるようになったと感じる。
- 笑顔が増えた。
- 身の回り、状況をつかめるようになった。
- 不要な物を捨てられるようになった。

◆里親と里子の関係 （5段階評価 1 とても悪い ⇔ 5 とても良い）

実施場所17か所の合計（回答者 89名） 平均点 4.3点／5点満点

- 前よりも私を頼ってくれ、純粋に楽しい時間を一緒に過ごせるようになった。
- できたことを褒めると子どもは笑顔になり自信をもって物事に取り組むようになった。
- 子どもを見る目が自分自身の中で変化したように思う。よってイライラが減り、子どももより信頼をしてくれたように思う。
- 話をしっかり聞くことで、安心してどんなことも話していいんだという信頼関係は深くなった気がします。
- 良いところに目を向けられるようになった。任せられるようになった。
- 私も聞く力と顔を合わせて穏やかに対応することで、子どもの考えも分かり主張してくれる。
- 笑顔が増えストレスの少ない関係になったように思います。
- 私は子どもの行動をよく観察するようになり、子どももそれがわかるのか落ち着いて過ごせる事が増えた気がします。
- 子どもはより安心した様子で家の中で過ごすようになりました。私は疲れた時に、“今日は自分は頑張ったからこれだけできていけば良いよね”と、自分を許せるようになりました。
- 自分のストレス、自分が子どもに対して何をしなければならぬかというプレッシャーに押しつぶされそうでしたが、子どもの状況下、子どもの気持ちに寄り添いながら共に歩いていくという方向性が与えられ、私も子どもも緊張が少しほぐれてきた気がします。
- 注意や指示よりも共感や安心感を優先した関りが増えました。子どもは気持ちを言葉で表現してくれるようになり信頼関係が深まったと感じました。
- お互いがお互いのことを思いやり考えたりすることがよりできるようになった。衝突が減った。
- 嫌な出来事を話してくれるようになった。心理的な距離感が近くなった。

◆里親として感じ方への影響

内省

- ・子どもに対してこうさせようと言う思いがなくなり子どもの今に目を向けられるようになった。
- ・ストップ・プラン・アンド・ゴーを試して、自分をまず落ち着かせ一息つき無作法な行動は無視しても良いことが、とても私の気持ちを楽にしてくれました。普段から自分を褒めることはまったくと言ってないので大切なことだと感じ、自分を褒めるようにしようと思った。
- ・子どもが、今後こういった姿を表すかその対応方法を知っておくことで心構えが出来ました。
- ・実親と里親と子どもの育て方に大きく変わりはないと思いますが、知らぬうちに環境の変化や経験が子どもに影響を与えており、基盤を大事にした愛着形成を見直すことができました。
- ・子どもの様子に振り回されず、子どもがなぜそうするのかを考えたり自分にできることを考えたりすることで、落ち着いて接することができると感じている。
- ・今までの養育を振り返る機会になった。
- ・子どもに対して、どうしたらいいのかわからないでいっぱいだったが、それがかなり減りイライラが減った。
- ・大人の関わり方、向き合い方次第で子どもも反応し変化することを実感できた、スキルを身につけ実践していきたい。
- ・子どもの考えを否定してばかりいたかもしれないと気付きました。自分の考えを押し付けてばかりいました。
- ・思春期は困難しかないと八方ふさがりのように思っていたが、皆さんのあたたかい気持ちにふれてコースで色々学ぶことで前向きに捉えることができるようになった。

変化

- ・子どもとの関係性に変化がありました。少し余裕を持てるようになりました。
- ・自分を認めてケアしてあげるきっかけをくれました。
- ・子どもの出来ている部分、出来る可能性に期待を持てた。褒めてあげること、アテンディングの重要性に気づけた。
- ・とても大きく子育てのスキルが変化したと思う。というか私自身の心の中に変化があったと思う。
- ・里親だから〇〇であらねばならない”というこだわりを外して、相手に合わせた対応ができることが増えました。
- ・マインドが変わって、前向きに考えることができるようになったので、落ち着いて子どもの対応ができるようになった。
- ・子どもを表面的に見るのではなく、気持ちやニーズに目を向けて関わる姿勢が身につきました。自分の感情を整えながら落ち着いて対応するいしきが高まったと感じています。
- ・少しの違和感を大丈夫として来ていたが、きっちりと向き合い支援が必要なのは利用していこうという意識が生まれた。

自信

- ・気持ちに自信とゆとりを持たせてくれた。
- ・里親としてやるべき行動が分かった。
- ・これからの教育に自信が持てた。
- ・知識が広がり、子どもとの関わり方の引き出しが増え、自信につながった。
- ・一人の人間の成長に携わることを改めて感謝します。もっと自信を持とうと思ったし、水差しのエクササイズを見て今までの自分の心が空っぽになっていたことにも気づけました。
- ・自信と安心につながった。

仲間

- ・同じ里親としての悩みを共有して心強かったし勇気づけられた。何か問題ごとに直面した時、コースのことを思い浮かぶようになった。
- ・色々な里親さんの経験を聞かせていただいて大変勉強になりました。
- ・他の里親との話で理解でき共感したことで負担が軽減、気持ちが楽になった。
- ・真実告知をしたすぐあとの3歳過ぎくらいの時、すごく本児もとまどっていた、試し行動をしたり手がすぐ出たり、私自身もすごく疲弊してしまっていた時期があったのですが、他の里親さんの経験談を聞いたこともとてもいい影響があり、自分のことも客観視できるようになりました。
- ・まず考え方の基本を教えていただき、他の里親さんの話を通じて理解が深まりました。

◆家庭訪問を受けたことでどう役になったか（複数回答可）

回答者（97名）	回答数
a.全く役に立たなかった	3名
b.コースに参加することに自信が持てた	33名
c.里親として支援されていると感じた	65名
d.ファシリテーターは、里親として、私が必要としていることに 関心があるとわかった	37名
e.その他(自由記述) ・1回でも顔合わせをすることで安心感がありました。 ・気合いが入った。 ・どんなお菓子が好きですか？まで聞き取り調査してくださり、大変うれしかった。他にも里親さんたちも受講されるというのを聞いて、決心がつきました。 ・困っていることや悩んでいることを相談できて気持ちが楽になった。 ・里子にも会っていただけたため家庭の様子などイメージしてもらいやすいと感じた。	7名



2025年度の実施と今後の課題

| SOS子どもの村JAPAN 松崎 佳子 |

フォスタリングチェンジ・プログラム（以下FCP）は、ネグレクトや虐待が与える影響を考慮しつつ、効果的なコミュニケーション、問題解決のスキルを重視し、里親が日々の生活の中で、子どもの行動のニーズを把握し対応できるようになること、子どもとの良好な関係性の構築を目的としている研修です。2016年度福岡と熊本でスタートし、全国地域へ広がってきています。

今年度は全国13県地域で19回実施されました。そのうち4地域で複数回の実施となっています。また、開催19回のうち約半数は里親支援センターが開催実施機関となっています。啓発リクルート、研修、委託後支援を総合的に実施する里親支援センターの設置が進んでいますが、そのなかで、里親委託後の研修として位置付けられ取り組まれた結果ではないかと思われます。

ファシリテーター養成については、2024年度と同様に、前半2日間オンライン、後半2日間対面研修というハイブリッド形式で実施しました。参加のしやすさと、FCPとしてのコミュニケーションの重要性、雰囲気体験はできたのではないかと思います。また、対面研修を後半2日間にしたことで、ロールプレイなど実践を含むプログラムもかなり体験できるようになったのではないかと思います。

FCPは実施開始から10年目を迎え、350名強のファシリテーターが養成され、ほぼ全県地域で登録されています。毎年全地域で実施できているわけではありませんが、各地域それぞれ協議工夫されながら実施に取り組んでいます。

特に、広範囲の地域での里親さんへのプログラムの実施については、毎週、12回の実施は、課題があります。遠距離のため全プログラムが実施できないことから、体験版として重要セッションだけを実施している地域もあります。今後、オンライン使用や対面との組み合わせ等による実現性についてさらに検討を進めていく必要があります。

児童福祉法の改正の施行として、家庭養育推進、子どものパーマネンシー保障を目指して、2024年度から引き続き各自治体による「社会的養育推進5年計画」も示されました。社会的養護の家庭養育推進のなかで、里親支援センターの設置が進んでいます。

里親委託の推進は、里親支援と両輪で行う必要があります。里親養育は、中途養育であり、愛着、関係性の構築の難しさを抱えた養育です。FCPは、それらに対して里親自身が自ら工夫し取り組むことを支援する研修です。

里親養育が推進される中で、里親の不調も課題となってきていますが、FCPは、里親養育が7割と普及している英国において、不調の予防の目的も含めて開発された研修です。もちろん、FCPが万能の研修というわけではありません。しかし、里親としてどのように子どもを養育していくのか基本的な考え方、関わり方を実践的に仲間と学び、養育対応の基盤になるのではないかと考えられます。これまで受講された里親さんたちとのアフターセッションを毎年行っていますが、「スキルは忘れたけれども、ちょっと聞くと思い出すよね。そう改めてこれ大事よね」などすぐに里親同士の会話が始まります。やはり里親さんたちに共通言語として共有されているんだなと感じています。

社会的養護の家庭養育推進のなか、子どもたちにとって安心感のある里親養育への支援として、FCPもより質の高い研修となるよう充実させていく必要があると考えています。



作成 2025年7月
一般社団法人 無憂樹

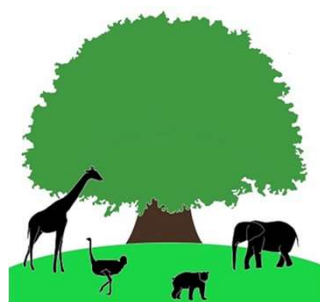
〒160-0023
東京都新宿区西新宿7-4-7 イマス浜田ビル5階

TEL : 03-6869-0192

FAX : 03-6869-0228

MAIL : fcg@muyuju.org

<https://muyuju.com>



一般社団法人 無憂樹